

〔茶道要録^{主法}〕爐同縁之事

一杓子之事、爐ノ灰杓子三本、各形アリ、共ニ桑柄也、風爐ハ打延ニテ、柄ノ所ヲ籜ニテ包ミ、紙捻ニテ三所結籜ヲ綺テモ結ナリ、結目下ノ方ニスベシ、

一下取杓子之事、爐風爐共ニ打延ニテ、取柄ヲ籜ニテ包ミ、青麻繩ニテ卷ナリ、爐ハ大風爐ハ小也、末流ニ底取ト云不用、

〔貞要集^三〕火箸之事、附火箸莊之事

灰掾、古來ハ小土器にて灰をまき申候、道安作にて銅の灰掾ひに桑の柄を付申候、今の世迄用申候、

〔喫茶指掌編^二〕遠州政^一小堀云、唯一簞一瓢の足事を知、身の外を願事を不可爲、小欲知足の本意を

不了得故に、一を得ては二を願、以三五になす事を不知、他の珍器をかぞへうらやみ、きたなき心と成もて行事、同前の道具の新古、價の輕重を論ずる事は拙しと、

實殊勝なり、今の世の喫茶者流の癖こゝに有いたむべし

山上宗二云、道具一種にても、珠光宗珠、此衆の心に掛られたる物を所持すべきなりと、

〔獨語〕近き世に人のもてあそぶ茶の道こそいと心得ぬことなれ、器は古きをもとむるにあらず、

唯新らしきをすと尙書に云へるに、今の茶人は、幾年を経たりともしれぬ、舊き茶碗の汚穢不淨にして、しかもかけ損じたるを、うるしなどにて繕ひて用ふ、けがらはしき云ふばかりなし、朝鮮

國の人の常に用ふる唾壺の舊きを求めて、抹茶を貯へて、是を茶入と云ふ、是もけがらはしき竹篋を撓めて匙として茶を杓ふ、是を茶杓と云ふ、^略○中凡萬の器の中に、舊くて善き物は樂器なり、

昔の上手のつくりて、多の年を歴たるは、必妙なる聲出で、あやしきこともある故に、樂器は少しも舊きを寶とす、樂器の外は、大方何の器も舊きは新しきにしくことなし、^略○中今の世の茶を